



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学工学部旧鉦山学科実習報文一覧
Author(s)	角, 哲; 池上, 重康; 砂本, 文彦 他
Citation	北海道大学大学文書館年報, 2, 123-150
Issue Date	2007-03-30
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/43366
Type	other
File Information	2_123-150.pdf



〈 資料目録 〉

北海道大学工学部旧鉱山学科実習報文一覧（1926～1975年）

期	年	名前（旧姓）	実習報文タイトル	所在地
1	1926	荒川順二郎（児玉）	荒川鉱山報告	秋田
1	1926	高村保次	三井砂川炭礦報告	北海道
1	1926	市井重次	足尾銅山報告	栃木
1	1926	森永武忠	町田炭砒報告	福島
1	1928	森下星一	三菱美唄第一坑報告	北海道
1	1926	星川武一郎	濁川油田及ビ金照寺油田報告	秋田
1	1926	中島成	入山五坑報告	福島
1	1926	唐牛綱男	三菱美唄第一坑報告	北海道
1	1926	唐牛綱男	三菱美唄第三坑報告	北海道
1	1926	富樫義文	土畑鉱山報告	岩手
2	1927	城下進作	松島炭砒報告	長崎
2	1927	前川保文	高島砒業所二子坑報告	長崎
2	1927	中島正巳	日立鉱山報告	茨城
2	1927	波止薫	槽屋炭田調査報告	福岡
2	1927	澤田鶴松	鞍山鉱山の地質報告	満州
3	1928	田中剛一	美唄炭砒常盤台堅坑報告	北海道
3	1928	宮牛正雄	三井砂川炭礦報告	北海道
3	1928	篠原千代之助	新夕張礦報告	北海道
3	1928	十川宏治	萬字炭坑報告	北海道
3	1928	小島鷺男	上歌志内炭礦報告	北海道
3	1928	成田亮一	幌内炭砒報告	北海道
3	1928	西部篤祐	春採坑報告	北海道
3	1928	大島栄次郎	茂尻炭礦報告	北海道
3	1927	中村了	三池炭礦四山坑報告	熊本
3	1928	福島正一	夕張砒大新坑報告	北海道
4	1929	伊奈胤男	尾去沢鉱山報告	秋田
4	1929	江端清	若菜辺炭砒報告	北海道
4	1929	市川坦	好間炭礦報告	福島
4	1929	小池直治	砂川炭礦第二坑報告	北海道
4	1929	松野栄治	萬字炭砒報告	北海道
4	1929	松野栄治	石狩油田報告	北海道
4	1929	森巖	足尾銅山報告	栃木
4	1929	中村善助	登川炭砒報告	北海道
4	1929	鳥尾勝一	幌内炭礦報告	北海道
4	1929	武内稜	雄別炭砒報告	北海道
5	1930	伊澤藤四郎	幾春別炭砒報告	北海道
5	1930	加藤博	住友上歌志内炭砒報告	北海道
5	1930	鈎逸郎	夕張炭礦報告	北海道
5	1930	吉木博	北部大夕張炭礦報告	北海道
5	1930	玉永米作	万字炭砒報告	北海道
5	1930	小林勝材	住友奔別炭砒報告	北海道
5	1930	上村重忠	三井砂川炭礦報告	北海道
5	1930	占谷敏夫	久根銅山報告	静岡
5	1930	中村達彦	三井田川炭坑礦報告	福岡

期	年	名前 (旧姓)	実習報文タイトル	所在地
5	1930	奈敏	新夕張炭砒報告	北海道
5	1930	白石勇	美唄炭砒報告	北海道
5	1930	布施德行	嘉穂炭坑報告	福岡
5	1930	門尾晃	別子銅山報告	愛媛
5	1930	澤田福三	春採炭砒報告	北海道
5	1930	眞柳義行	大之浦炭砒報告	福岡
6	1931	阿部吉雄	春採坑報告	北海道
6	1931	羽金與六郎	日立鉦山報告	茨城
6	1932	何純鶴	秋田県田利砒場実習報告	秋田
6	1931	加藤二郎	三井美唄坑報告	北海道
6	1931	久米秀雄	夕張鑛大新坑報告	北海道
6	1931	国分諄	幾春別砒報告	北海道
6	1931	今甫	三菱大夕張坑報告	北海道
6	1931	佐川廣	茂尻炭砒報告 (函面)	北海道
6	1931	新開尚明	三菱美唄砒報告	北海道
6	1931	森田太郎	三井砂川炭砒報告	北海道
6	1931	斉藤秀郎	内郷炭砒高坂坑報告	福島
6	1931	大熊太郎	三井美唄坑報告	北海道
6	1931	大森光雄	大夕張坑報告	北海道
6	1931	丹英藏	新夕張坑報告	北海道
6	1931	長野三郎	鴻之舞鉦山報告 (附函)	北海道
6	1931	鳥羽信次	撫順老虎台坑報告	満州
6	1931	唐神勝明	越後油田報告	新潟
6	1931	奈良勇雄	上歌志内住友炭坑報告	北海道
6	1931	木全力一	奔別炭坑報告 (函面)	北海道
7	1932	安斉修一	奔別砒報告	北海道
7	1932	安田二郎	尾去沢鉦山報告	秋田
7	1932	関口保平	幌内砒報告	北海道
7	1932	及川洋	大夕張炭砒報告	北海道
7	1932	高橋嘉幸	昭和炭砒報告	北海道
7	1932	砂糖富彌	新夕張砒報告	北海道
7	1932	細道政治	夕張天龍坑報告	北海道
7	1931	山本英一	雄別炭坑報告	北海道
7	1932	小黒春之助	三菱美唄第二坑報告	北海道
7	1932	谷口広吉	登川坑報告	北海道
7	1932	中村悌三	幾春別坑報告	北海道
7	1932	長野耕三	芦別炭坑報告	北海道
7	1932	田中靖時	芦別炭砒報告	北海道
7	1932	梅田潔	三井砂川砒報告	北海道
7	1932	飯泉文蔵	別子銅山報告	愛媛
8	1933	吉田喜久次郎	空知砒報告	北海道
8	1933	吉田利信	彌生及幾春別砒報告	北海道
8	1933	久保田誠二	茅沼炭砒報告	北海道
8	1933	近藤正治	尾去沢鉦山報告	秋田
8	1933	田淵和彦	砂川第二坑報告	北海道
8	1933	栃木勝治	茂尻炭砒報告	北海道
8	1933	奈宣文	三菱美唄砒報告	北海道
8	1933	平瀬禎克	夕張本砒天龍坑報告	北海道
8	1933	矢野偉郎	住友上歌志内鑛報告	北海道
8	1933	圓山政吉	尾去沢鉦山報告	秋田

期	年	名前（旧姓）	実習報文タイトル	所在地
8	1933	澤海弘一	轟鉱山報告	北海道
8	1933	斎藤貞雄	住友上歌志内砒報告	北海道
9	1934	相川鎮雄	土畑鉱山実習報文	岩手
9	1934	伊藤格郎	尾去澤鉱山報告	秋田
9	1934	皆川昇	夕張砒本坑天龍坑報告	北海道
9	1934	原佐多夫	三池鑛業所四ツ山坑報告	熊本
9	1934	高橋正	釜石鑛山実習報告書	岩手
9	1934	高峠繁	三菱美唄砒常盤台堅坑報告	北海道
9	1934	黒木晋也	花岡鑛山実習報告書	秋田
9	1934	斉藤真人	日立鑛山報告	茨城
9	1934	前原平	三井万田炭坑報告	熊本
9	1934	長谷川誠三	明延鑛山大仙坑報告	兵庫
9	1934	長谷川惇	幌内砒布引坑報告	北海道
9	1934	塚田正夫	生野鑛山金香瀨坑実習報告文	兵庫
9	1934	土屋光三	撫順炭砒龍鳳坑報告	満州
9	1934	藤田幸隆	別子本山実習報文	愛媛
9	1934	武田信男	鴻之舞鉱山実習報文	北海道
9	1934	和田栄作	三井砂川鉱第二坑報告	北海道
10	1935	瓜生義臣	三井美唄砒業所第一坑第二区実習報告	北海道
10	1935	岡新次	三井三池炭砒宮浦坑実習報文	熊本
10	1935	加瀬清志	静狩鉱山実習報告書	北海道
10	1935	鎌谷士	日立鑛山実習報告書	茨城
10	1935	結城玄藏	神岡砒業所枳洞坑実習報文	岐阜
10	1935	佐藤信之丞	春採坑実習報文	北海道
10	1935	佐藤文造	夕張砒天龍坑実習見学報文	北海道
10	1935	秋沢政雄	幌内砒実習報文	北海道
10	1935	森田榮哉	尾去沢鉱山報告	秋田
10	1935	西川次郎	尾小屋鉱山鉱山実習報文	石川
10	1935	折原偉佐夫	住友大萱生鑛業所実習報告書	岩手
10	1935	相庭良光	三菱美唄砒業所第二坑報告書	北海道
10	1935	村岡成人	珊瑚砒業所実習報文	北海道
10	1935	池盛秀	住友別子鉱山実習報告文	愛媛
10	1935	池田弘	大夕張新坑実習見学報文	北海道
10	1935	竹内毅	足尾砒業所通洞峯台坑実習報文	栃木
10	1935	中村正	佐渡鑛業所本山実習見学報文	新潟
10	1935	並河敏	鴻之舞鉱山実習報文（附図）	北海道
11	1935	阿部一貞	太平洋炭砒春採坑実習報告書	北海道
11	1936	伊藤杉藏	三井珊瑚砒業所実習報告書	北海道
11	1936	伊藤陸三	三菱生野金香瀨坑実習報告書	兵庫
11	1936	岡本敏一	古河砒業所足尾銅山実習報告書	栃木
11	1936	加藤博俊	三井美唄実習報告書	北海道
11	1936	梶田文雄	三井川上鑛業所実習報告書	樺太
11	1936	吉岡義周	静狩金山実習報告書	北海道
11	1936	吉岡正二	別子鑛山実習報告書	愛媛
11	1936	高田豊	住友鴻之舞鑛業所五号坑実習報告書	北海道
11	1936	諏訪善綱	三井砂川鑛業所実習報告書	北海道
11	1936	石谷節三	撫順炭砒老虎台坑実習報告書	満州
11	1936	石田正一	尾去沢鉱山実習報告書	秋田
11	1936	川島游	持越鑛山実習報告書	静岡
11	1936	前川信	住友大萱生鑛業所実習報告書	岩手

期	年	名前 (旧姓)	実習報文タイトル	所在地
11	1936	大楽敏知	日立鉱山鉄下部及坑道掘進実習報告	茨城
11	1936	中榮喜久雄	三菱細倉鉱山実習報告書	宮城
11	1936	辻重信	三菱美唄鑛業所実習報告書	北海道
11	1936	奈良勲	三菱大夕張砒業所実習報告書	北海道
11	1936	飯泉博	昭和製鋼所実習報告書	北海道
11	1936	樋岡静雄	北海道炭砒汽船夕張丁末北上坑実習報告書	北海道
11	1936	牧野紀典	三井神岡鑛業所枋洞坑実習報告書	岐阜
12	1937	阿部良哉	神岡鑛山枋洞坑実習報文	岐阜
12	1937	伊藤計三	細倉鑛山実習報文	宮城
12	1937	岡田勝	撫順炭鑛東郷採炭所実習報文	満州
12	1937	関享	高玉鑛山本山坑実習報文	福島
12	1937	後藤正夫	三池炭鑛宮之浦坑実習報文	福岡
12	1937	高田慶	住友鴻之舞鑛山元山坑実習報文	北海道
12	1937	鹿野達三	足尾鑛山通洞峯会坑実習報文	栃木
12	1937	酒澤勇二郎	北票炭鑛実習報文	満州
12	1937	小森豊	鯛生金山実習報文	大分
12	1937	小林一雄	三菱大夕張炭砒実習報文	北海道
12	1937	青田義雄	別子鑛業所(端岩場)実習報文	愛媛
12	1937	浅尾太郎	尾小屋鑛山実習報文	石川
12	1937	藤田穎雄	撫順炭砒大山採炭所実習報文	満州
12	1937	萩原信悟	日立鑛山実習報文	茨城
12	1937	福井博	三池炭鑛四ツ山坑実習報文	熊本
12	1937	卜部昭典	手稲鑛山三ツ山坑実習報文	北海道
12	1937	味村照夫	佐渡鉱山実習報文	新潟
12	1937	鈴木安文	檜峰鉱山実習報文	宮崎
13	1938	安部克己	雲山砒業所実習報文	朝鮮
13	1938	井上保之助	崎戸砒業所二坑実習報文	長崎
13	1939	陰山謙二	静狩砒業所実習報文	北海道
13	1938	金会吉次	神岡砒業所実習報文	岐阜
13	1938	高野孝	尾去沢砒山石切沢坑実習報文	秋田
13	1938	高橋勝史	珊瑚砒業所実習報文	北海道
13	1938	山村禮二郎	北票炭砒実習報文	満州
13	1938	紫雲千鶴雄	高島砒業所端島坑実習報文	長崎
13	1938	小石儀祐	檜峯砒山実習報文	宮崎
13	1938	小川芳郎	撫順炭砒老虎臺実習報文	満州
13	1938	神作正史	大夕張砒業所実習報文	北海道
13	1938	石原敬三	西安炭鑛大成採炭所実習報文	朝鮮
13	1938	千村勘	別子鑛業所実習報文	愛媛
13	1938	中村雅男	黄海道薺津鑛山実習報文	朝鮮
13	1938	中尾敦司	三井田川砒業所第三坑実習報文	福岡
13	1938	田中文三	土肥砒山実習報文	静岡
13	1939	田母神虎知	夕張炭砒大新坑実習報文	北海道
13	1938	平山正	三菱美唄砒業所通洞実習報文	北海道
13	1938	眞下章三	本溪湖煤鉄公司第四坑実習報文	満州
14	1939	若園正吉	河津砒山実習報文	静岡
14	1939	阿部広	三菱高島砒業所端島坑実習報文	長崎
14	1939	猿丸貞満	撫順炭坑古城子採炭所老虎台採炭所実習報文	満州
14	1939	岩浪勝治	撫順炭鑛龍鳳採炭所塔連坑実習報文	満州
14	1939	吉住政夫	三菱明延砒山実習報文	兵庫
14	1939	宮崎義一	住友歌志内炭砒実習報文	北海道

期	年	名前（旧姓）	実習報文タイトル	所在地
14	1939	近藤忠和	三井鯉田炭鉱報	福岡
14	1939	見澤繁光	三菱美唄鑛業所堅坑実習報文	北海道
14	1939	高原英一	大楡洞鑛山実習報文	朝鮮
14	1939	山口勇次郎	三井川上炭砒実習報文	樺太
14	1939	実原宗忠	三井串木野鉦業所第一坑実習報文	鹿児島
14	1939	柴田寛治	西安炭鉦実習報文	朝鮮
14	1939	西村確郎	阜新鉦業所高德採炭所実習報文	満州
14	1939	大久保通史	沖山炭鉦新坑実習報文	山口
14	1939	大和明史	大夕張砒業所実習報告	北海道
14	1939	大峽譲	崎戸鉦業所実習報文	長崎
14	1939	池上源吉	弓張嶺鉄山実習報文	満州
14	1939	中沼拓治	尾小屋鉦山実習報文	石川
14	1939	渡辺洋一	持越鉦業所実習報文	静岡
14	1939	島津由藏	神岡鉦業所柘洞坑実習報文	岐阜
14	1939	富田勇二	足尾鑛山実習報文	栃木
14	1939	平井節郎	弓張嶺鉄山実習報文	満州
14	1939	北修一	楊家杖子鉦業所実習報文	満州
14	1939	本間良一	佐渡鉦山本山実習報文	新潟
14	1939	野村豊継	金瓜石鉦山実習報文	台湾
15	1940	伊関悦郎	満州勤守報告隊鉄工特技隊北大班報告書	満州
15	1940	伊藤悦郎 佐藤重雄 寺内四計男 湯由重雄 高木史郎	満州勤労報告隊鉄工	満州
15	1940	伊奈一郎	三菱勝田砒業所実習報文	福岡
15	1940	塩月陽一	住友歌志内鑛業部神歌志内礦実習報文	北海道
15	1940	奥平浩	入山坑務所第六坑実習報文	福島
15	1940	岡山隆史	大平鑛業所西二坑実習報文	北海道
15	1940	岡沼巖	三菱細倉鉦山二貫目区実習報文	宮城
15	1940	加藤竣平	撫順炭砒龍鳳採炭所龍鳳坑実習報文	満州
15	1940	吉川茂明	楊家杖子鉦業所実習報文	満州
15	1940	橋本清	遠賀鑛業所高松礦第二坑実習報文	福岡
15	1940	松平敬信	佐渡鑛山実習報文	新潟
15	1940	神尾驍	鯛生鑛山実習報文	大分
15	1940	西田五一	三井砂川鑛業所第一坑実習報文	北海道
15	1940	船津住三郎	持越鉦山実習報文	静岡
15	1940	大竹幸吉	三菱高島鑛業所端島坑実習報文	長崎
15	1940	谷巖	大楡洞鉦業所本坑実習報文	朝鮮
15	1940	藤原栄一郎	三菱筑豊鑛業所山田坑実習報文	福岡
15	1940	望月眞二郎	三井三池砒業所四つ山坑実習報文	熊本
15	1940	木村伸	三井三池砒業所萬田坑実習報文	熊本
15	1940	木村敏行	三井山野鑛業所第二坑実習報文	福岡
15	1940	矢島四郎	本溪湖媒鐵公司第一卸実習報文	満州
16	1941	高橋政治	古河足尾鉦業所	栃木
16	1941	金山二郎	住友鴻之舞鑛業所五号坑実習報文	北海道
16	1941	高澤実	三菱塔路砒業所一坑	樺太
16	1941	佐々木洋	三菱上山田炭砒実習報文	福岡
16	1941	坂上正一	三井三池砒業所四つ山坑実習報文	熊本
16	1941	坂田淳二	三菱上山田炭砒実習報文	福岡

期	年	名前 (旧姓)	実習報文タイトル	所在地
16	1941	寺田林平	古河飯盛鉱業所実習報文	和歌山
16	1941	小林吉郎	三菱勝田鉱業所実習報文	福岡
16	1941	石崎敏正	茂尻鉱業所実習報書	北海道
16	1941	赤坂嘉之	日本鉱業高玉鉱山本山坑実習報文	福島
16	1941	相田健二	雄別鉱業所雄別本坑実習報文	北海道
16	1941	野原博	撫順炭硯萬達屋坑実習報文	満州
17	1941	石浜涉 石井道夫 大脇久人	日立鉱山外見学報文	茨城
18	1942	金内誠	赤池鉱業所	福岡
18	1942	石井道夫	三井神岡鉱業所	岐阜
18	1942	大脇久人	紀州鉱山	三重
18	1942	中川弘	稲築炭硯	福岡
18	1942	平沢直	陸軍燃料本部石油鉱業一般	東京
20	1944	安東孝士	北炭幌内鉱業所幌内硯実習報文	北海道
20	1944	菊池稔	北炭幌内鉱業所新幌内硯実習報文	北海道
20	1944	堀喜彦	石狩鉱業所油井掘鑿実習報文	北海道
21	1945	大塚一雄	北海道炭硯汽船株式会社夕張鉱業所第一硯北上坑	北海道
21	1945	志賀正典	太平洋炭硯株式会社釧路鉱業所春採坑実習報文	北海道
21	1945	田井政俊	三井鉱山株式会社砂川鉱業所第一坑	北海道
21	1945	高橋一郎	北海道炭硯汽船株式会社新幌内炭硯実習報文	北海道
21	1945	辻村弘	三井鉱山株式会社砂川鉱業所第一坑実習報文	北海道
21	1945	寺本豊太	茅沼炭硯実習報文	北海道
21	1945	中澤孝定	北海道炭硯汽船株式会社幌内硯新幌内硯実習報文	北海道
21	1945	中谷幸男	明治鉱業株式会社庶路鉱業所実習報文	北海道
21	1945	中村孝	三菱鉱業株式会社手稲鉱業所三ツ山坑実習報文	北海道
21	1945	橋本安雄	三井鉱山株式会社砂川鉱業所実習報文	北海道
21	1945	山田努	三井鉱山株式会社美唄鉱業所実習報文	北海道
21	1945	伊藤清和	夕張鉱業所第二坑第一区実習報文	北海道
21	1945	橋本努	北海道炭硯汽船株式会社夕張鉱業所第一硯北上坑実習報文	北海道
21	1945	広川弘	三井鉱山株式会社美唄鉱業所第一坑実習報文	北海道
21	1945	江端俊治	太平洋炭硯株式会社釧路鉱業所春採坑実習報文	北海道
21	1945	前川正雄	三井鉱山株式会社美唄鉱業所実習報文	北海道
21	1945	沢田卓藏	三菱鉱業株式会社手稲鉱業所三ツ山坑実習報文	北海道
21	1945	藤川一夫	井華鉱業株式会社奔別鉱業所実習報文	北海道
21	1945	畑山平八郎	北海道炭硯汽船株式会社空知鉱業所空知硯実習報文	北海道
21	1945	飯島繁夫	井華鉱業株式会社赤平硯実習報文	北海道
21	1945	堀井善司	太平洋炭硯株式会社釧路鉱業所春採坑	北海道
22	1946	阿部隆明	雄別炭硯鉄道株式会社茂尻鉱業所実習報文	北海道
22	1946	大橋修作	三菱鉱業株式会社大夕張鉱業所	北海道
22	1946	小黒栄	三菱鉱業株式会社大夕張鉱業所	北海道
22	1946	織茂正則	足尾鉱業所本山坑	栃木
22	1946	加藤清一	三菱鉱業株式会社手稲鉱業所三ツ山坑	北海道
22	1946	清原重夫	三井鉱山株式会社砂川鉱業所第七坑	北海道
22	1946	後藤昇	夕張鉱業所第二坑実習報文	北海道
22	1946	佐藤弘	雄別炭硯鉄道株式会社茂尻鉱業所	北海道
22	1946	谷本幹男	明治鉱業株式会社昭和炭硯	北海道
22	1946	富田英夫	三菱鉱業株式会社大夕張鉱業所	北海道
22	1946	中野吉兵衛	太平洋炭硯株式会社釧路鉱業所春採坑	北海道
22	1946	橋本伸	三井鉱山株式会社砂川鉱業所第七坑	北海道

期	年	名前（旧姓）	実習報文タイトル	所在地
22	1946	林光男	浅野雨竜炭硯末広坑	北海道
22	1946	三浦正佐久	北海道炭硯汽船株式会社幌内硯業所新幌内硯	北海道
22	1946	南敬	三菱硯業株式会社手稲硯業所	北海道
22	1946	山田俊晴	明治硯業株式会社昭和炭硯	北海道
22	1946	横山知光	三井硯山株式会社芦別硯業所	北海道
22	1946	横山知光	三菱硯業株式会社手稲硯業所	北海道
22	1946	吉田誠	三井硯山株式会社美唄硯業所	北海道
22	1946	米澤隆藏	三菱硯業株式会社新下川硯業所	北海道
22	1946	渡辺等	北海道炭硯汽船株式会社幌内硯業所新幌内硯	北海道
22	1946	森野要	井華硯業株式会社別子硯業所	愛媛
22	1946	村島一郎	井華硯業株式会社鴻之舞硯業所伊奈牛硯山	北海道
22	1946	大林諭	井華硯業株式会社別子硯業所	愛媛
23	1947	相沢克美	北炭空知硯業所神威硯実習報文	北海道
23	1947	秋元得次	太平洋炭硯春採坑	北海道
23	1947	秋元敏男	北海道炭硯汽船株式会社空知硯業所赤間炭硯	北海道
23	1947	安達六郎	北炭幌内硯業所幌内硯	北海道
23	1947	荒木武夫	北海道炭硯汽船株式会社空知硯業所赤間坑	北海道
23	1947	飯島備三	北炭空知硯業所神威硯	北海道
23	1947	後藤利雄	北海道炭硯汽船株式会社空知硯業所赤間炭硯	北海道
23	1947	佐々木嘉久治	井華硯業株式会社赤平硯業所赤平硯	北海道
23	1947	須藤清平	北海道炭硯汽船株式会社赤間炭硯	北海道
23	1947	スロジヨ・ラマディレジョ	Report On Mitsui-Ashibetsu Coal Mine	北海道
23	1947	西野泉三	三井硯山株式会社芦別炭硯	北海道
23	1947	服部正弘	三菱硯業株式会社美唄硯業所	北海道
23	1947	村上公也	雄別炭硯鉄道株式会社茂尻硯業所	北海道
23	1947	田中実	井華硯業株式会社伊奈牛硯山	北海道
23	1947	斉藤実	雄別炭硯鉄道株式会社茂尻硯業所	北海道
24	1948	岩井光雄	明治庶路硯業所	北海道
24	1948	海藏寺忍	三井硯山株式会社砂川硯業所第二坑	北海道
24	1948	大宮寿夫	三菱硯業株式会社大夕張硯業所	北海道
24	1948	小川務	井華硯業株式会社赤平硯業所上歌志内硯	北海道
24	1948	小出康夫	三菱硯業株式会社美唄硯業所	北海道
24	1948	寺田利雄	三菱美唄硯業所堅坑実習報文	北海道
24	1948	成田俊雄	北炭夕張硯業所第二硯	北海道
24	1948	西村茂樹	北炭幌内硯業所幌内硯業所	北海道
24	1948	能登克彦	雄別炭硯鉄道株式会社雄別硯業所	北海道
24	1948	古井雅哉	茅沼炭硯	北海道
24	1948	又原克彌	築別炭硯	北海道
24	1948	山崎正	雄別炭硯鉄道株式会社茂尻硯業所	北海道
24	1948	小林隆之	釜石硯山実習報文	岩手
25	1949	阿部邦也	茅沼硯業所実習報書	北海道
25	1949	五十鈴慶尚	井華硯業株式会社奔別硯業所奔別硯第五坑	北海道
25	1949	井田昭三	油谷硯業株式会社油谷芦別炭硯	北海道
25	1949	井上昭二	三井芦別硯業所第一坑	北海道
25	1949	菊池朋也	雄別炭硯鉄道株式会社茂尻硯業所	北海道
25	1949	木村仁郎	三菱美唄硯業所常盤硯堅坑	北海道
25	1949	小池賢之助	幌内硯業所萬字硯	北海道
25	1949	小出信明	三井硯山株式会社砂川硯業所第一坑	北海道
25	1949	坂東克也	北炭幌内硯業所新幌内硯	北海道
25	1949	佐藤裕	北炭夕張第二硯	北海道

期	年	名前 (旧姓)	実習報文タイトル	所在地
25	1949	清水悟朗	三井鉱山株式会社芦別鉱業所	北海道
25	1949	庄司孔一	Report of Practical Exercise at Mitsui-Sunagawa	北海道
25	1949	鈴木三八郎	北海道炭鉱汽船株式会社夕張鉱業所第二坑	北海道
25	1949	田畑昭	三井鉱山株式会社芦別鉱業所第一坑	北海道
25	1949	当銀秀保	井華鉱業株式会社上歌志内鉱	北海道
25	1949	橋谷田次郎	明治鉱業株式会社昭和炭鉱	北海道
25	1949	光永晴行	北海道炭鉱汽船株式会社幌内鉱業所幾春別鉱	北海道
25	1949	舟木昇	太平洋炭鉱株式会社春採坑	北海道
25	1949	村井郁生	雄別鉱業所	北海道
25	1949	横山和昭	明治鉱業株式会社庶路鉱業所本坑	北海道
26	1950	大森藤代	三井砂川鉱業所第四坑	北海道
26	1950	小野里公基	三菱美唄常盤台堅坑報告	北海道
26	1950	垣沼竜一	明治鉱業株式会社昭和鉱業所	北海道
26	1950	加藤俊夫	三井鉱山株式会社芦別鉱業所第一坑	北海道
26	1950	茅野成雄	三井鉱山株式会社砂川鉱業所第五坑	北海道
26	1950	菊池潔	大夕張炭鉱実習報文	北海道
26	1950	近藤哲朗	三菱鉱業株式会社大夕張鉱業所	北海道
26	1950	近藤博	三菱美唄鉱業所常盤台堅坑	北海道
26	1950	近藤匡	古河足尾鉱業所	栃木
26	1950	酒井克巳	三井芦別鉱業所第一坑	北海道
26	1950	坂橋弘	太平洋炭鉱春採坑	北海道
26	1950	条川辰夫	釜石鉱業所実習報告文	岩手
26	1950	鈴木利久	大日本炭鉱株式会社勿来鉱業所	福島
26	1950	永田茂	三井鉱業株式会社芦別鉱業所第一坑	北海道
26	1950	中根博司	日本曹達株式会社天塩鉱業所	北海道
26	1950	中村棋久哉	新夕張炭実習報告	北海道
26	1950	難波亘	夕張鉱業所第三坑	北海道
26	1950	野口貢	三菱大夕張鉱業所	北海道
26	1950	萩原和夫	夕張鉱業所第二坑	北海道
26	1950	平井和彦	北炭新幌内鉱	北海道
26	1950	平賀哲陽	北炭幌内鉱業所幾春別鉱	北海道
26	1950	広岡耕三	平和鉱業所真呑地鉱	北海道
26	1950	宮本泰八郎	日曹鉱業株式会社天塩鉱業所第一坑・第三坑	北海道
26	1950	脇宏祐	北炭夕張鉱業所第二坑	北海道
27	1951	石川丘	三菱鉱業株式会社大夕張鉱業所	北海道
27	1951	板垣宗男	北炭幌内鉱業所新幌内鉱	北海道
27	1951	北村博稔	北炭夕張鉱業所第二坑	北海道
27	1951	笹木敏	三井金属鉱業株式会社神岡鉱業所	岐阜
27	1951	佐藤忠行	北炭夕張鉱業所第二坑	北海道
27	1951	塩田昭三	太平洋炭鉱株式会社釧路鉱業所春採坑	北海道
27	1951	高崎昭三	三井田川鉱業所第三坑	福岡
27	1951	玉宮賢	三井鉱山株式会社美唄鉱業所第一坑	北海道
27	1951	小菅善一	三菱美唄鉱業所	北海道
27	1951	永井正夫	三井鉱業株式会社芦別鉱業所	北海道
27	1951	中川隆郷	石原産業株式会社紀州鉱山	三重
27	1951	橋本桂一郎	三井鉱山株式会社芦別鉱業所	北海道
27	1951	藤田之雄	茅沼炭鉱実習報文	北海道
27	1951	本田昭	井華赤平鉱業所	北海道
27	1951	宮城邦彦	三井美唄鉱業所	北海道
27	1951	三宅竜夫	明治鉱業株式会社昭和鉱業所	福岡

期	年	名前（旧姓）	実習報文タイトル	所在地
27	1951	森谷正三	三井砂川鉱業所第三坑	北海道
27	1951	植田淳	別子鉱業株式会社別子鉱業所	愛媛
27	1951	高瀬郁弥	北海道炭硯汽船株式会社夕張鉱業所第二硯一区	北海道
28	1951	石川茂	住友赤平硯業所	北海道
28	1951	大石達司	北炭夕張鉱業所遠幌硯	北海道
28	1951	加藤幸	住友石炭鉱業株式会社奔別鉱業所第五坑	北海道
28	1951	小坂剛夫	太平洋炭硯株式会社釧路鉱業所春採坑	北海道
28	1951	佐藤正	三井鉱山株式会社芦別鉱業所第一坑	北海道
28	1951	富田収	北炭空知鉱業所空知硯	北海道
28	1951	福島誠	三菱鉱業株式会社茶志内硯業所通洞坑	北海道
28	1951	福田隆	北炭幌内硯業所新幌内硯	北海道
28	1951	藤野俊郎	三菱鉱業株式会社常盤硯堅坑実習報文	北海道
28	1951	本田裕夫	三菱鉱業株式会社高島鉱業所二子坑	長崎
28	1951	松村正之	三井金属鉱山株式会社神岡鉱業所栃洞坑	岐阜
28	1951	柳寛之	住友石炭鉱業株式会社奔別鉱業所	北海道
28	1951	山家章	三菱大夕張鉱業所大夕張坑	北海道
28	1951	由利一之	三井砂川鉱業所第一硯第一斜坑	北海道
28	1951	小橋紀	釜石鉱山実習報文 同附図	岩手
28	1951	高野裕吉	北炭夕張鉱業所第二硯	北海道
29	1952	加我直治	雄別炭硯鉄道株式会社雄別硯業所	北海道
29	1952	嘉山功彦	北炭幌内硯業所新幌内硯	北海道
29	1952	河原崎荒男	三井砂川硯業所第四坑	北海道
29	1952	菊池敏昭	北炭空知鉱業所空知硯	北海道
29	1952	木村俊郎	三井金属株式会社神岡鉱業所	岐阜
29	1952	清波諄一	北海道炭硯汽船株式会社新幌内硯業所	北海道
29	1952	佐竹一城	三菱鉱業株式会社大夕張鉱業所	北海道
29	1952	島田勝弘	住友金属株式会社余市鉱山湯内硯	北海道
29	1952	下沢弘雄	雄別炭硯鉄道株式会社茂尻硯業所	北海道
29	1952	白石重治	三井砂川硯業所実習報文	北海道
29	1952	関川清三	羽幌炭硯鉄道株式会社築別硯業所	北海道
29	1952	常盤野泰一	古河鉱業株式会社足尾硯業所	栃木
29	1952	並河瀧夫	北炭幌内硯業所新幌内硯業所	北海道
29	1952	新野幸男	古河鉱業株式会社雨竜炭硯末広坑	北海道
29	1952	松田正久	北炭空知鉱業所神威硯	北海道
29	1952	南哲夫	三菱金属株式会社檜峰硯業所	宮崎
29	1952	宮田和佳	三井鉱業株式会社山野鉱業所第三坑	福岡
29	1952	村上常雄	北炭夕張鉱業所第一硯北上坑	北海道
29	1952	村山国之助	三菱金属株式会社尾去沢鉱山	秋田
29	1952	山口一彦	三菱鉱業株式会社茶志内硯業所	北海道
29	1952	山田広敬	三井芦別硯業所	北海道
29	1952	横山久雄	北炭夕張硯業所第一硯	北海道
29	1952	吉田迪郎	明治鉱業株式会社庶路硯業所庶路坑	北海道
29	1952	富樫文	住友金属鉱業株式会社鴻之舞硯業所実習報文図面集	北海道
29	1952	高橋睦朗	三菱鉱業株式会社美唄硯業所	北海道
29	1952	高橋忠	北炭夕張硯業所第三硯橋立坑実習報文	北海道
30	1953	阿部晃一郎	北炭空知鉱業所神威硯	北海道
30	1953	阿部重俊	芦別高根硯業所実習報文	北海道
30	1953	安藤正勝	北炭幌内硯業所実習報文	北海道
30	1953	梅津洋	赤平硯業所実習報文	北海道
30	1953	蛭名国夫	北炭幌内硯業所実習報文	北海道

期	年	名前 (旧姓)	実習報文タイトル	所在地
30	1953	大西一雄	日本鋳業株式会社尾小屋鋳業所実習報文	石川
30	1953	大野然	北炭幌内鋳業所新幌内砒	北海道
30	1953	小倉道夫	太平洋炭砒株式会社釧路鋳業所興津坑	北海道
30	1953	柏川英夫	雄別炭砒鉄道株式会社尺別鋳業所	北海道
30	1953	川村洋一	三井芦別鋳業所実習報文	北海道
30	1953	神野淳郎	三菱鋳業株式会社美唄鋳業所堅坑実習報文	北海道
30	1953	木村栄三	北炭幌内鋳業所幾春別砒	北海道
30	1953	楠英彦	北炭夕張鋳業所第一砒北上坑	北海道
30	1953	高橋利夫	羽幌築別鋳業所実習報文	北海道
30	1953	後藤大世	古河鋳業株式会社雨竜鋳業所実習報文	北海道
30	1953	酒井豊	北炭夕張鋳業所第二砒実習報文	北海道
30	1953	佐々木朝彦	日曹天塩炭礦実習報文	北海道
30	1953	中村留男	三井芦別鋳業所実習報文	北海道
30	1953	西島一男	茅沼炭北鋳業株式会社実習報文	北海道
30	1953	樋口茂雄	三菱大夕張鋳業所実習報文	北海道
30	1953	藤沢義郎	住友石炭鋳業株式会社弥生鋳業所実習報文	北海道
30	1953	細川康弘	三菱金属鋳業株式会社細倉鋳業所実習報文	宮城
30	1953	本間一郎	北炭夕張鋳業所第三砒橋立坑	北海道
30	1953	本間義紀	北炭平和鋳業所平和砒第一射坑	北海道
30	1953	宮本正克	三井美唄鋳業所実習報文	北海道
30	1953	山田誠之	雄別炭砒鉄道株式会社茂尻鋳業所	北海道
30	1953	齊藤幸三	日鉄鋳業株式会社釜石鋳山	岩手
31	1954	藍洋一	三井金属神岡鋳業所栃洞坑	岐阜
31	1954	池田佳章	北炭幌内鋳業所万字砒	北海道
31	1954	磯和祺祐	三菱鋳業株式会社榎峰鋳業所	宮崎
31	1954	伊東悟	太平洋炭砒釧路鋳業所興津坑	北海道
31	1954	稲葉敏二	三菱鋳業株式会社大夕張鋳業所	北海道
31	1954	井上裕	千歳鋳山株式会社千歳鋳業所	北海道
31	1954	後木貞四	古河鋳業株式会社足尾鋳業所	栃木
31	1954	勾坂和夫	細倉鋳山	宮城
31	1954	坂本代	日本鋳業株式会社河山鋳業所	山口
31	1954	志田覚	同和鋳業株式会社柵原鋳業所	岡山
31	1954	鈴木重安	住友金属余市鋳業所	北海道
31	1954	相馬三三	松尾鋳山実習報文	岩手
31	1954	外岡洋一	三菱鋳業株式会社三菱美唄鋳業所滝之沢新坑	北海道
31	1954	高橋利夫	羽幌築別鋳業所	北海道
31	1954	種田忠夫	日本工業株式会社日立鋳業所	茨城
31	1954	田村明敏	三井芦別鋳業所第一坑	北海道
31	1954	中嶋滋夫	石原産業紀州鋳業所	三重
31	1954	中林政毅	三菱金属生野鋳業所	兵庫
31	1954	西尾竜一	三井芦別鋳業所	北海道
31	1954	三浦隆	三井鋳山株式会社三井田川鋳業所	福岡
31	1954	三原晃一	三井芦別鋳業所第一坑	北海道
31	1954	山崎正治	三井金属株式会社神岡鋳山栃洞院	岐阜
31	1954	山田幸宏	北炭幌内鋳業所新幌内砒	北海道
31	1954	阿部博	釜石鋳山実習報文	岩手
31	1954	金山公夫	三菱金属明延鋳山	兵庫
31	1954	中林政毅	三菱金属生野鋳業所	兵庫
31	1954	田中盛夫	住友金属鴻之舞鋳業所	北海道
32	1955	浅野稔	古河鋳業株式会社飯盛鋳業所	和歌山

期	年	名前（旧姓）	実習報文タイトル	所在地
32	1955	魚住重夫	北炭空知鉱業所空知鉱	北海道
32	1955	大角暢	常盤炭硯株式会社茨城硯業所第三坑	茨城
32	1955	大塚勝幸	佐々連鉱業所実習報文	愛媛
32	1955	大橋栄一郎	住友金属余市鉱業所	北海道
32	1955	上水昇平	三井鉱山砂川鉱業所第一坑	北海道
32	1955	久保英司	明治鉱業株式会社庶路硯業所庶路一坑	北海道
32	1955	倉持昭徳	三菱鉱業株式会社美唄鉱業所	美唄
32	1955	鴻巣茂	日東鉱山実習報文	北海道
32	1955	斉藤満	三井芦別鉱業所	北海道
32	1955	佐藤幸次	太平洋炭硯株式会社釧路硯業所興津坑	北海道
32	1955	須田利行	三菱金属鉱業株式会社横峰鉱業所	宮崎
32	1955	武田隆造	古河鉱業株式会社久根鉱業所名合坑及同選鉱場	静岡
32	1955	田中康信	北炭幌内鉱業所幌内硯	北海道
32	1955	利行淳一	茅沼炭化鉱業株式会社茅沼鉱業所	北海道
32	1955	長谷直幸	豊羽鉱山株式会社豊羽鉱業所	北海道
32	1955	平間芳雄	住友金属八総鉱業所	福島
32	1955	本間靖男	日本工業株式会社日立鉱業所	茨城
32	1955	八木真之助	三菱鉱業株式会社大夕張鉱業所	北海道
32	1955	山田裕	住友石炭鉱業株式会社赤平硯業所	北海道
32	1955	加来弘	明延鉱業所実習報文	兵庫
32	1955	荒井宏	住友金属鴻之舞鉱業所	北海道
32	1955	佐々木鉄雄	日鉄鉱業株式会社釜石鉱業所	岩手
33	1957	赤羽憲昭	大之浦硯業新菅牟田坑	福岡
33		足立昌幸	日立鉱業所	茨城
33	1956	市川昌人	河山鉱業所	山口
33	1956	井村昭一	三井砂川鉱業所第一坑	北海道
33	1956	菊池正孝	釧路太平洋興津坑	北海道
33	1956	佐藤米司	庶路鉱業所	北海道
33	1956	品田潤一	茅沼炭硯	北海道
33	1956	杉山憲一	柵原鉱業所	岡山
33	1956	田口友彦	飯盛鉱山	和歌山
33	1956	立花義郎	下川鉱業所	北海道
33	1956	寺沢一	日本鉱業峰之澤鉱業所	静岡
33	1956	直江互昭	北炭新幌内硯	北海道
33	1956	藤井農夫也	三菱金属下川鉱業所北炭夕張鉱業所第二坑	北海道
33	1956	松崎節夫	日本鉱業河山鉱業所	山口
33	1956	安井真穂	余市鉱業所	北海道
33	1956	山下直利	太平洋炭硯春採坑	北海道
33	1956	吉田徹	三菱金属生野鉱山	兵庫
33	1956	栗原康	明延鉱山	兵庫
33	1956	小松崎克	別子鉱業所 第一生産部	愛媛
33	1956	長谷川弘	鴻之舞鉱業所	北海道
33	1956	福本明	鴻之舞鉱業所	北海道
34	1957	安達三郎	北炭夕張鉱業所	北海道
34	1957	五十嵐健	神岡鉱業所柘洞坑	岐阜
34	1957	市原晴明	羽幌炭硯羽幌硯業所	北海道
34	1957	伊藤誠吾	住友金属余市鉱業所	北海道
34	1957	今河恭一	住友石炭奔別硯業所	北海道
34	1957	小田桐桂二	同和鉱業花岡鉱山	秋田
34	1957	神戸睦夫	日本鉱業河山鉱業所	山口

期	年	名前 (旧姓)	実習報文タイトル	所在地
34	1957	川中俊男	日鉄北海道鋳業所	北海道
34	1957	小松弘	北炭平和鋳業所真谷地柱坑	北海道
34	1957	佐山惣吾	三菱大夕張鋳業所	北海道
34	1957	市中栄治	三菱大夕張鋳業所	北海道
34	1957	洪川穰	日本鋳業日立鋳業所	茨城
34	1957	杉本晴男	足尾銅山	栃木
34	1957	竹沢良紀	三菱金属槇峰鋳業所	宮崎
34	1957	鳥居喜代蔵	古河鋳業飯盛鋳業所	和歌山
34	1957	平野芳雄	三菱金属下川鋳業所	北海道
34	1957	福井隆	三菱美唄鋳業所	北海道
34	1957	前田眞	砂川鋳業所第二坑	北海道
34	1957	牧宏	日本鋳業峰之沢鋳業所	静岡
34	1957	丸山係治	三菱金属尾去沢鋳業所	秋田
34	1957	水谷淳	久根鋳業所名合支山	静岡
34	1957	山本淳二	住友赤平鋳業所	北海道
34	1957	塩井敦雄	住友金属鴻之舞鋳業所	北海道
34	1957	横田米夫	三菱金属生野鋳業所	兵庫
34	1957	浅倉邦夫	日鉄釜石鋳業所	岩手
34	1957	米谷弘敏	住友金属鴻之舞鋳業所	北海道
35	1958	赤西長彦	古河鋳業久根鋳業所名合支山	静岡
35	1958	石橋健	住友赤平鋳業所	北海道
35	1958	磯部定男	太平洋炭砒釧路鋳業所興津坑	北海道
35	1958	伊藤健二	北炭幌内鋳業所新幌内砒	北海道
35	1958	大沼浩一郎	三井砂川鋳業所	北海道
35	1958	上島富司雄	北炭幌内鋳業所万字砒	北海道
35	1958	川畑享	北炭幌内鋳業所新幌内砒	北海道
35	1958	酒井敏信	古河鋳業足尾鋳業所	栃木
35	1958	佐藤光洋	三菱大夕張鋳業所	北海道
35	1958	志摩禧幸	三菱美唄鋳業所滝ノ沢坑	北海道
35	1958	立野博昭	三井鋳山芦別鋳業所	北海道
35	1958	津田義和	三井金属神岡鋳業所栃洞坑	岐阜
35	1958	永井寿一	三井芦別鋳業所	北海道
35	1958	長谷川堅一	山野鋳業所第一堅坑	福岡
35	1958	福迫尚一郎	明治鋳業庶路鋳業所	北海道
35	1958	藤原長蔵	雄別炭砒茂尻鋳業所	北海道
35	1958	保志幸男	住友石炭奔別鋳業所奔別炭砒	北海道
35	1958	南山勝寛	北炭空知鋳業所	北海道
35	1958	岡田旭郎	日鉄釜石鋳業所	岩手
35	1958	盛田弘昭	住友金属鴻之舞鋳業所	北海道
35	1958	堀義嗣	三菱金属明延鋳業所	兵庫
35	1958	葉袋精一	住友金属別子鋳業所	愛媛
36	1959	秋葉雪雄	住友金属鴻之舞鋳業所	北海道
36	1959	阿部則夫	三井芦別鋳業所	北海道
36	1959	井上直	住友石炭奔別鋳業所奔別砒	北海道
36	1959	今井司	同和鋳業花岡鋳業所	秋田
36	1959	岩崎幹郎	雄別炭砒雄別鋳業所	北海道
36	1959	大久保克二	同和鋳業柵原鋳業所	岡山
36	1959	大沢昌勝	日本鋳業日立鋳業所本山	茨城
36	1959	鬼沢秀和	三井金属神岡鋳山栃洞坑	岐阜
36	1959	片岡更一	住友石炭赤平鋳業所	北海道

期	年	名前（旧姓）	実習報文タイトル	所在地
36	1959	窪田開拓	羽幌炭砒築別砒業所	北海道
36	1959	小池盛育	北炭幌内砒業所新幌内砒	北海道
36	1959	小林崇男	北炭平和砒業所平和砒	北海道
36	1959	島方柳治	三菱金属尾去沢砒業所	秋田
36	1959	白峰昇	北炭平和砒業所平和砒	北海道
36	1959	洞口忠人	三菱金属下川砒業所	北海道
36	1959	中島巖	明治石炭庶路砒業所	北海道
36	1959	野々村光胤	三菱砒業美唄砒業所	北海道
36	1959	本間久朗	太平洋炭砒春採坑興津坑	北海道
36	1959	源俊博	三菱砒業芦別砒業所	北海道
36	1959	村上智夫	羽幌砒業所羽幌本坑	北海道
36	1959	山本勝男	三菱金属生野砒業所	兵庫
36	1959	西木戸和弘	日鉄釜石砒業所	岩手
36	1959	川村礼二	三菱金属明延砒業所	兵庫
37	1960	青柳宏	三菱金属槇峰砒業所	宮崎
37	1960	綾井忠義	日本砒業白滝砒業所	高知
37	1960	一柳俊一	住友金属八總砒業所	福島
37	1960	上田康郎	同和砒業花岡砒業所	秋田
37	1960	上東直人	三井金属申木野砒業所	鹿児島
37	1960	遠藤彰三	三菱砒業高島砒業所	長崎
37	1960	菊田正紀	日立砒業所本山	茨城
37	1960	木崎宏	羽幌炭砒築別砒業所	北海道
37	1960	高橋敏雄	三井金属神岡砒業所	岐阜
37	1960	高橋光男	三菱金属下川砒業所	北海道
37	1960	小島武	三菱砒業高島砒業所	長崎
37	1960	鈴木裕	三菱金属細倉砒業所	宮城
37	1960	関昭彦	大之浦砒業所菅牟田坑	福岡
37	1960	竹内修	三井神岡砒業所柄洞坑	岐阜
37	1960	坪岡健一郎	三菱崎戸砒業所一坑	長崎
37	1960	中村吉男	日炭高松砒業所	福岡
37	1960	蓮田哲彦	東邦亜鉛対州砒業所	長崎
37	1960	深堀征夫	石原産業紀州砒業所	三重
37	1960	藤江長仁	三菱金属尾去沢砒業所	秋田
37	1960	宮村研	住友金属佐々連砒業所	愛媛
37	1960	矢口璋夫	古河砒業飯盛砒業所	和歌山
37	1960	山岸孝行	日鉄峰之沢砒業所	静岡
37	1960	山口圭造	三菱金属妙法砒山	和歌山
37	1960	間宮博	日鉄砒業釜石砒業所	岩手
37	1960	吉田典生	三菱金属生野砒業所	兵庫
37	1960	今井常生	住友金属鴻之舞砒業所	北海道
37	1960	石川博康	三菱金属明延砒業所	兵庫
37	1960	石田光征	住友金属別子砒業所	愛媛
37	1960	高田繁樹	太平洋炭砒釧路砒業所	北海道
37	1960	高畑稔	住友石炭赤平砒業所	北海道
38	1961	上島壯	足尾鑛業所通洞坑実習報文	栃木
38	1961	梅野隆彦	三菱金属槇峰砒業所実習報文	宮崎
38	1961	鬼塚弘明	古河飯盛鑛業所実習報文	和歌山
38	1961	角谷實	日立鑛業所実習報文	茨城
38	1961	川原弘司	石原産業紀州鑛業所実習報文	三重
38	1961	工藤昌明	羽幌炭砒築別鑛業所実習報文	北海道

期	年	名前 (旧姓)	実習報文タイトル	所在地
38	1961	小林竜郎	北炭夕張鑛業所実習報文	北海道
38	1961	今野雅博	三井金属神岡鑛業所柘洞坑実習報文	岐阜
38	1961	末兼光	三菱尾去沢鑛業所実習報文	秋田
38	1961	鈴木昂	三菱細倉鑛業所実習報文	秋田
38	1961	武田勇一	住友佐々連鑛業所実習報文	愛媛
38	1961	永田淳一	釧路鑛業所興津坑実習報文	北海道
38	1961	西島孝一	日鑛河山鑛業所実習報文	山口
38	1961	樋口澄志	三菱大夕張鑛業所実習報文	北海道
38	1961	望月友彦	東邦亜鉛対州鑛業所実習報文	長崎
38	1961	矢幡梯三郎	釧路港業所春採坑実習報文	北海道
38	1961	横田一彦	三菱妙法鑛業所実習報文	和歌山
38	1961	橋本靖郎	日鉄鉦業釜石鉦業所実習報文	岩手
38	1961	中村勲	三菱明延鑛業所実習報文	兵庫
38	1961	田中紀夫	住友別子鉦業所実習報文	愛媛
38	1961	繁富一彬	三菱金属生野鉦業所実習報文	兵庫
38	1961	高見満矩	三菱高島鑛業所二子坑実習報文	長崎
39	1962	矢部興一	住友奔別砒業所実習報文	北海道
39	1962	池田紀文	三菱高島鑛業所実習報文	長崎
39	1962	磯部和宏	三菱大夕張鑛業所実習報文	北海道
39	1962	井上昇	三井神岡鑛業所実習報文	岐阜
39	1962	牛尾勤	三菱金属下川鑛業所実習報文	北海道
39	1962	大野速雄	三菱金属細倉鉦山実習報文	秋田
39	1962	大橋陸夫	釧路鑛業所実習報文	北海道
39	1962	神野幹夫	三菱金属妙法鉦業所実習報文	和歌山
39	1962	倉田岸人	同和鉦業小坂鉦山実習報文	秋田
39	1962	黒崎巖	古河足尾鑛業所実習報文	栃木
39	1962	高橋健	日本鉦業日立鑛山本山実習報文	茨城
39	1962	高橋毅	住友赤平鑛業所実習報文	住友
39	1962	高山隆男	日窒秩父鉦山実習報文	埼玉
39	1962	越智啓登	三菱金属槇峰鑛業所実習報文	宮崎
39	1962	立花豊	宇部興産(株)宇部鑛業所実習報文	山口
39	1962	堤昌孝	同和鉦業柵原鉦山実習報文	岡山
39	1962	出羽英雄	古河興業久根鉦山実習報文	静岡
39	1962	長野郁男	三井神岡鑛山実習報文	岐阜
39	1962	中山正行	住友赤平砒業所実習報文	北海道
39	1962	畑中孝壽	羽幌炭砒築別鉦業所実習報文	北海道
39	1962	前田好弘	古河鑛業飯盛鉦山実習報文	和歌山
39	1962	宮島崇男	住友金属鉦山佐々連鑛業所実習報文	愛媛
39	1962	目黒正規	同和鉦業花岡鑛業所実習報文	秋田
39	1962	安岡隆昭	三菱金属尾去沢鉦山実習報文	秋田
39	1962	角昭廣	住友金属別子鑛業所実習報文	愛媛
39	1962	大間登	三菱金属生野鑛業所実習報文	兵庫
39	1962	田村穰二	三菱金属明延鉦山実習報文	兵庫
40	1963	大山厚	三菱高島砒業所実習報文	長崎
40	1963	小笹和夫	日鉄嘉穂鑛業所実習報文	福岡
40	1963	工藤敏雄	昭和鉦業大久喜鑛業所実習報文	愛媛
40	1963	倉山昇	太平洋炭砒釧路鑛業所実習報文	北海道
40	1963	高橋俊二	三井神岡鉦業所実習報文	岐阜
40	1963	五箇野紘一	杵島炭砒杵島砒業所実習報文	佐賀
40	1963	斉藤明德	宇部鑛業所実習報文	山口

期	年	名前（旧姓）	実習報文タイトル	所在地
40	1963	坂田茂夫	日本鉱業河守鉱業所実習報文	京都
40	1963	佐藤征二	住友赤平砒業所実習報文	北海道
40	1963	白石勝久	松島炭砒大島鉱業所実習報文	長崎
40	1963	関戸英範	三井芦別鑛業所実習報文	北海道
40	1963	瀬藤嘉章	日本亜鉛中竜鉱業所実習報文	福井
40	1963	辻隆宏	三井三池鑛業所実習報文	熊本
40	1963	富長勇作	豊羽鑛山実習報文	北海道
40	1963	中島宏	三菱金属槇峰鑛業所実習報文	宮崎
40	1963	中谷章雄	三井神岡鑛業所実習報文	岐阜
40	1963	比志島康久	同和鉱業花岡鉱山実習報文	秋田
40	1963	平野泰行	古河久根鑛業所実習報文	静岡
40	1963	廣井捷夫	日室鉱業秩父鑛業所実習報文	埼玉
40	1963	前田駿	住友石炭鉱業株式会社奔別砒業所奔別砒実習報文	北海道
40	1963	増谷俊一	日鉱日立鑛業所実習報文	茨城
40	1963	森訓保	三菱下川鉱業所実習報文	北海道
40	1963	森田祐次	石原産業紀州鑛業所実習報文	三重
40	1963	山口征二	同和鉱業柵原鑛業所実習報文	岡山
40	1963	吉川謙造	日本鉱業白滝鑛業所実習報文	高知
40	1963	吉田秀夫	日鉱河山鑛業所実習報文	山口
40	1963	神尾信	三菱生野鑛業所実習報文	兵庫
40	1963	石谷実男	古河飯盛鑛業所実習報文	和歌山
40	1963	福井徹也	三菱金属明延鑛業所実習報文	兵庫
41	1964	寺崎靖則	日本鉱業河山鉱業所	山口
41	1964	岡本博之	三井神岡鉱業所柵洞坑	岐阜
41	1964	木村雅光	住友金属佐々連鉱業所	愛媛
41	1964	小松賢至	松島炭砒大島鉱業所	長崎
41	1964	佐々木英則	同和鉱業花岡鉱業所	秋田
41	1964	渋谷堯	三菱高島砒業所	長崎
41	1964	松島孝	同和鉱業秋田鉱業所小坂鉱山	秋田
41	1964	根岸伊佐夫	住友金属鉱山別子鉱業所	愛媛
41	1964	竹内昌之	日鉄釜石鉱山	岩手
42	1965	R. ヘルセオヨ	同和鉱業柵原鉱業所	岡山
42	1965	朝日禎彦	羽幌炭砒羽幌砒業所	北海道
42	1965	池田哲志	太平洋炭砒釧路春採砒	北海道
42	1965	石倉裕三	羽幌炭砒羽幌砒業所	北海道
42	1965	植田俊治	三菱金属槇峰鉱山	宮崎
42	1965	国安正	住友金属鉱山佐々連鉱業所	愛媛
42	1965	高橋祥夫	日本鉱業日立鉱業所	茨城
42	1965	佐藤雅直	三菱金属下川鉱業所	北海道
42	1965	田島和夫	三井金属鉱業串木野鉱山	鹿児島
42	1965	富永徹	三井金属串木野鉱山	鹿児島
42	1965	長尾哲男	三菱金属鉱業細倉砒業所	秋田
42	1965	中静勝彦	豊羽鉱山株式会社	北海道
42	1965	難波武	日室鉱山秩父砒業所	埼玉
42	1965	平野勝利	太平洋炭砒釧路砒業所春採坑	北海道
42	1965	深谷康生	日本鉱業豊羽砒業所	北海道
42	1965	藤崎仁	同和鉱業秋田砒業所（小坂鉱山部）	秋田
42	1965	藤野戸紘紀	同和鉱業柵原砒業所	岡山
42	1965	堀口英雄	秩父セメント三輪鉱山	埼玉
42	1965	本間昭宇	三井芦別炭砒	北海道

期	年	名前 (旧姓)	実習報文タイトル	所在地
42	1965	松井誠	三菱金属下川鉱業所	北海道
42	1965	水上敏弘	三井金属神岡鉱業所柘洞坑	岐阜
42	1965	山岸資幸	同和鉱業花岡鉱山	秋田
42	1965	山崎博之	住友石炭鉱業赤平鉱業所	北海道
42	1965	山崎正徳	住友金属鉱山佐々連鉱業所	愛媛
42	1965	小粥保英	三菱金属鉱業明延鉱業所	兵庫
42	1965	川端輝男	住友金属別子鉱業所	愛媛
42	1965	村瀬明	住友金属鉱山別子鉱業所 (第一生産部)	愛媛
42	1965	塚本慶四郎	三菱金属生野鉱業所	兵庫
43	1966	朝倉国臣	同和鉱業株式会社小坂鉱山部	秋田
43	1966	新谷浩行	日本鉱業日立鉱業所	茨城
43	1966	域本公孝	日本鉱業豊羽鉱業所	北海道
43	1966	海老沢基	同和鉱業秋田鉱業所花岡鉱山	秋田
43	1966	鍵和田哲男	三菱鉱業高島鉱業所二子坑	長崎
43	1966	川田武志郎	日本鉱業日立鉱業所本山	茨城
43	1966	小口正持	日本鉱業白滝鉱業所	高知
43	1966	坂森浩志	住友金属鉱山佐々連鉱業所	愛媛
43	1966	佐藤光男	同和鉱業柵原鉱業所	岡山
43	1966	佐野徹	ラサ工業田老鉱業所	岩手
43	1966	須知修	石原産業紀州鉱山	三重
43	1966	田中一彦	住友石炭奔別鉱業所	北海道
43	1967	玉木勝	夕張炭砒北夕鉱業所	北海道
43	1966	羽賀秀夫	太平洋炭砒釧路炭砒	北海道
43	1966	福島篤	常盤炭砒磐城砒業所	茨城
43	1966	前田恭司	羽幌炭砒築別鉱業所	北海道
43	1966	ヌサ・トウンダン	三井金属神岡鉱業所柘洞坑	岐阜
43	1966	南里元昭	三井芦別鉱業所	北海道
43	1966	南平忠敏	松島炭砒大島鉱業所	長崎
43	1966	村瀬喜之	三菱鉱業大夕張鉱業所	北海道
43	1966	森泉健二	ラサ工業田老鉱業所元山	岩手
43	1966	柳万雅徳	住友赤平鉱業所	北海道
43	1966	湯原宏	鐘打鉱業鐘打鉱業所	京都
43	1966	鷺見新一	三井金属神岡鉱業所柘洞坑	岐阜
43	1966	桜井国幸	住友金属鉱山別子鉱業所	愛媛
43	1966	相川正夫	日鉄鉱業釜石鉱業所	岩手
43	1966	大城照三	住友金属鉱山別子鉱業所	愛媛
44	1967	青柳直	日本鉱業日立鉱山実習報文	茨城
44	1967	移川満也	住友金属佐々連鉱業所実習報告	愛媛
44	1967	亀田郁朗	三菱金属下川鉱山実習報告	北海道
44	1967	熊谷研一	日本鉱業豊羽鉱山実習報告	北海道
44	1967	佐藤義裕	羽幌炭砒羽幌鉱業所実習報告	北海道
44	1967	鈴木勝	住友石炭赤平鉱業所実習報文	北海道
44	1967	竹浪雍昌	古河鉱業足尾鉱山実習報告	栃木
44	1967	恒川昌美	ラサ工業大峰鉱業所実習報告	大分
44	1967	鶴井雅夫	同和鉱業柵原鉱業所実習報告	岡山
44	1967	戸塚隆之	日本鉱業豊羽鉱山実習報告	北海道
44	1967	中村誠	三井金属神岡鉱業所実習報告	岐阜
44	1967	藤野渥	太平洋炭砒釧路鉱業所実習報告	北海道
44	1967	本間渥	太平洋炭砒釧路鉱業所実習報告	北海道
44	1967	本間彰	日本鉱業豊羽鉱山実習報告	北海道

期	年	名前（旧姓）	実習報文タイトル	所在地
44	1967	前田寛之	同和鉱業花岡鉱業所	秋田
44	1967	武者孝敏	日本鉱業日立鉱業所実習報告	茨城
44	1967	門谷利和	同和鉱業小坂鉱山実習報文	秋田
44	1967	金岡洋二	日鉄鉱業釜石鉱業所実習報文	岩手
44	1967	藪中卓郎	住友金属別子鉱業所実習報文	愛媛
45	1968	浅井敬司	ラサ工業大峰鉱業所実習報文	大分
45		伊藤実	日本鉱業日立鉱山実習報文	茨城
45	1968	井上孝俊	石原産業紀州鉱業所実習報文	三重
45		内海広志	太平洋炭硯釧路鉱業所実習報文	北海道
45	1968	内山吉宏	日本鉱業河山鉱業所実習報文	山口
45	1968	遠藤一	日窒鉱業秩父鉱山実習報文	埼玉
45	1968	大村富士夫	三井金属神岡鉱業所実習報告	岐阜
45	1968	小原誠	東邦亜鉛対州鉱業所実習報告	長崎
45	1968	片谷恒三	三井金属神岡鉱業所実習報告	岐阜
45	1968	熊谷武義	日本鉱業釈迦内鉱業所実習報告	秋田
45	1968	三寺幸雄	鐘打鉱業鐘打鉱山実習報告	京都
45	1968	城健夫	日本鉱業白滝鉱業所実習報告	高知
45	1968	鈴木正広	松島炭硯大島鉱業所実習報告	長崎
45	1968	玉木勝	北夕炭硯北夕硯業所	北海道
45	1968	友沢七郎	古河鉱業足尾鉱業所実習報告	栃木
45	1968	長尾武士	太平洋炭硯釧路鉱業所実習報告	北海道
45	1968	錦和熙	北進鉱業大江鉱山実習報告	北海道
45	1968	西田直和	日本鉱業日立鉱業所実習報告	茨城
45	1968	西谷義興	北炭幌内鉱業所実習報告	北海道
45	1968	橋本信	ラサ工業大峰鉱業所実習報告	大分
45	1968	林晴男	住友金属佐々連鉱業所実習報文	愛媛
45	1968	平野正美	住友石炭赤平鉱業所実習報文	北海道
45	1968	深川和幸	同和鉱業小坂鉱山実習報告	秋田
45	1968	布川賢一	三菱大夕張鉱業所実習報告	北海道
45	1968	細谷隆大	羽幌炭硯羽幌鉱業所実習報告	北海道
45	1968	前田雅慶	日本鉱業日立鉱山実習報告	茨城
45	1968	吉田道夫	日本鉱業豊羽鉱業所実習報告	北海道
45	1968	米田哲朗	日本亜鉛中竜鉱山実習報告	福井
45	1968	三島和生	住友金属別子鉱業所実習報文	愛媛
45	1968	山口寛	三菱金属明延鉱業所実習報文	兵庫
45	1968	小松則勝	同和鉱業花岡鉱業所実習報告	秋田
45	1968	淡路正哉	住友金属鴻之舞鉱業所実習報文	北海道
45	1968	鳥越一	住友金属別子鉱業所実習報文	愛媛
45	1968	田中啓爾	日鉄鉱業釜石鉱業所実習報文	岩手
45	1968	木村道夫	日鉄鉱業釜石鉱業所実習報文	岩手
46	1969	青山正明	河山鉱山実習報告	山口
46	1969	芦田仁之	土畑鉱業所実習報告	岩手
46	1969	安藤憲正	佐々連鉱山実習報告	愛媛
46	1969	安保信雄	柵原鉱山実習報告	岡山
46	1969	板倉一	太平洋釧路鉱業所	北海道
46	1969	加藤久仁夫	日本鉱業白滝鉱業所	高知
46	1969	木下博之	日本亜鉛鉱業(株)中竜鉱業所	福井
46	1969	栗田順三	八茎鉱山株式会社実習報告	福島
46	1969	小寺節	小坂鉱山実習報文	秋田
46	1969	佐藤健二	羽幌炭硯実習報告	北海道

期	年	名前 (旧姓)	実習報文タイトル	所在地
46	1969	茶碗谷 享	豊羽鋳山実習報文	北海道
46	1969	月館 吉一	大久喜鋳山	愛媛
46	1969	内藤 茂好	鐘打鋳業鐘打鋳業所	京都
46	1969	長崎 光政	花岡鋳山実習報文	秋田
46	1969	能登 正明	三菱高島鋳業所実習報告	長崎
46	1969	萩原 洋一	秩父鋳山実習報告	埼玉
46	1969	針原 良治	八茎鋳山株式会社実習報告	福島
46	1969	藤沼 光雄	太平洋釧路鋳業所実習報告	北海道
46	1969	堀井 伴夫	釈迦内鋳山実習報文	秋田
46	1969	堀雅 嗣	三輪鋳山実習報文	埼玉
46	1969	溝口 幸雄	三井神岡鋳業所実習報告	岐阜
46	1969	宮敏 雄	石原産業(株)紀州鋳山	三重
46	1969	江良 和夫	住友鋳業別子鋳業所	愛媛
46	1969	片岡 三郎	住友金属鴻之舞鋳業所実習報文	北海道
47	1970	飯田 謙	北炭幌内鋳業所実習報文	北海道
47	1970	伊藤 泰正	住友石炭赤平鋳行書実習報告	北海道
47	1970	伊藤 芳則	日鋳白滝鋳業所実習報文	高知
47	1970	大野 憲夫	鐘打鋳業鐘打鋳山実習報告	京都
47	1970	小倉 賢三	田中鋳業玖珂鋳山実習報告	山口
47	1970	川島 昭郎	同和鋳業花岡鋳山実習報告	秋田
47	1970	川津 直	三井鋳山三池鋳業所	熊本
47	1970	木内 仁	石原産業紀州鋳山実習報告	三重
47	1970	越前谷 義博	古河足尾鋳行書実習報告	栃木
47	1970	後藤 隆司	日鋳日立鋳山実習報告	茨城
47	1970	櫻井 修次	ラサ大峰鋳業所実習報告	大分
47	1970	下出 雅義	日鉄八茎鋳山実習報告	福島
47	1970	進藤 進	日亜中竜鋳業所実習報告	福井
47	1970	谷沢 真一	三井串木野鋳山実習報告	鹿児島
47	1970	玉木 勇	三井神岡鋳業所実習報告	鹿児島
47	1970	土居 正博	日鋳上北鋳山実習報文	青森
47	1970	内藤 哲	同和小阪鋳山実習報告	秋田
47	1970	中井 俊之	中外鋳業持越鋳山実習報告	静岡
47	1970	中村 剛之介	住友佐々連鋳業所実習報告	愛媛
47	1970	中村 孝	中外都茂鋳山実習報告	島根
47	1970	西原 彰夫	北陸尾小屋鋳山大谷坑実習報告	石川
47	1970	広川 茂樹	三菱古遠部鋳業所実習報告	秋田
47	1970	藤井 正	日鋳豊羽鋳山実習報告	北海道
47	1970	細谷 博美	日鋳日立鋳山実習報告	茨城
47	1970	前田 早利	奥多摩永川鋳山実習報告	東京
47	1970	三浦 富三郎	同和鋳業柵原鋳業所実習報告	岡山
47	1970	道家 太郎	住友赤平鋳業所実習報告	北海道
47	1970	門倉 寺夫	日窒鋳業秩父鋳山実習報告	埼玉
47	1970	八木 春人	三菱下川鋳業所実習報告	北海道
47	1970	山下 道生	鯛生大口鋳業所実習報告	大分
47	1970	山田 幸二郎	日鋳河山鋳業所実習報告	山口
47	1970	米沢 匠	昭和鰐淵鋳業所実習報告	島根
47	1970	渡辺 哲夫	日鋳豊羽鋳業所実習報告	北海道
47	1970	稲場 淳浩	三菱明延鋳業所実習報文	兵庫
47	1970	小高 竹男	三菱鋳業明延鋳業所実習報文	兵庫
47	1970	本間 一郎	住友別子鋳業所実習報文	愛媛

期	年	名前（旧姓）	実習報文タイトル	所在地
47	1970	鈴木博教	日鉄釜石鉱業所実習報文	岩手
48	1971	磯野新一	三菱石炭高島鉱業所実習報告	長崎
48	1971	伊藤哲男	古河足尾鉱山実習報告	栃木
48	1971	井上研一	三井鉱山三池鉱業所実習報告	熊本
48	1971	大沼博良	三井鉱山(株)第1坑、第2坑、黄金坑	北海道
48	1971	岡田信三	日窒秩父鉱山実習報告	埼玉
48	1971	岡野史郎	鯛生大口鉱業所実習報告	大分
48	1971	海道由彦	太平洋釧路鉱業所実習報告	北海道
48	1971	柿木真	三井金属神岡鉱業所実習報告	岐阜
48	1971	片岡裕	住友金属佐々連鉱業所実習報告	愛媛
48	1971	熊谷道比古	奥多摩永川鉱山実習報告	東京
48	1971	高橋克雄	石原産業紀州鉱山実習報告	三重
48	1971	斉数協	三井建設足別事業所実習報告	北海道
48	1971	里川純孝	同和鉱業小坂鉱山実習報告	秋田
48	1971	寒川正憲	三菱石炭高島鉱業所実習報告	長崎
48	1971	生川淳一	三井金属神岡鉱業所実習報告	岐阜
48	1971	田中久行	昭和鉱業鰐淵鉱業所実習報告	島根
48	1971	谷口勤	日鉱日立鉱業所実習報告	茨城
48	1971	波田野純一	三井建設(株)北炭夕張新鉱立坑作業所	北海道
48	1971	早川範明	同和鉱業小坂鉱山実習報告	秋田
48	1971	平田啓一	三井鉱山(株)三池鉱業所宮浦坑	熊本
48	1971	星野耕児	北炭幌内鉱業所実習報告	北海道
48	1971	榊井明	利根ボーリング株式会社実習報告工場及び現場実習	東京 北海道
48	1971	山田繁晴	北進鉱業大江鉱山実習報告	北海道
48	1971	吉村俊次郎	太平洋炭硯釧路硯業所実習報告	北海道
48	1971	六坂明夫	北炭幌内鉱業所実習報告	北海道
48	1971	桜庭武勝	住友別子鉱業所実習報文	愛媛
48	1971	山崎芳行	日鉄釜石鉱業所実習報文	岩手
48	1971	小林健一郎	日鉄釜石鉱業所実習報文	岩手
48	1971	木呂子豊彦	日鉱日立鉱業所実習報告	茨城
48	1971	鈴木潔	三菱金属明延鉱業所実習報文	兵庫
49	1972	相沢秀司	明治コンサルタント(株)札幌支店実習報告	北海道
49	1972	石村憲二	鉄道建設公団竜飛建設所実習報告	青森
49	1972	井上修平	佐藤工業(株)奥新冠ダム作業所実習報告	北海道
49	1972	押田元樹	朝日炭硯実習報告	北海道
49	1972	柿木真	三井金属鉱業神岡鉱業所実習報告	岐阜
49	1972	角俊成	三菱高島炭硯高島硯業所実習報告	長崎
49	1972	金田真一	動燃開発事業団人形峠鉱業所実習報告	岡山
49	1972	金子研一	鐘打鉱業(株)鐘打作業所実習報告	京都
49	1972	高田守正	東邦亜鉛(株)対州鉱業所実習報告	長崎
49	1972	高橋積	日鉄鉱業(株)釜石鉱業所実習報文	岩手
49	1972	坂東敏幸	日本セメント(株)峯朗鉱山実習報告	北海道
49	1972	佐々木寿朗	三菱大夕張炭硯南大夕張鉱業所実習報告	北海道
49	1972	皿田滋	三井建設(株)北炭新坑作業所実習報告	北海道
49	1972	清水孝浩	三井三池製作所大牟田工場実習報告	福岡
49	1972	須藤薫	日本セメント(株)峯朗鉱山実習報告	北海道
49	1972	竹田利夫	北進鉱業(株)大江鉱業所実習報告	北海道
49	1972	富樫康雄	秩父セメント(株)三輪鉱業所実習報告	埼玉
49	1972	永田幸嗣	三井建設(株)北炭新坑作業所実習報告	北海道

期	年	名前 (旧姓)	実習報文タイトル	所在地
49	1972	浪越哲	宇遠鉱山(株)宇遠鉱業所実習報告	埼玉
49	1972	滑川正朗	応用地学研究所実習報告	大阪
49	1972	野満健	石油資源開発(株)長岡鉱業所実習報告	新潟
49	1972	松平久寿	同和鉱業(株)小坂鉱業所実習報告	秋田
49	1972	水本清一	ラサ工業大峰鉱業所実習報告	大分
49	1972	水谷和秋	石油資源開発(株)長岡鉱業所実習報告	新潟
49	1972	道山省悟	三井金属鉱業(株)神岡鉱業所実習報告	岐阜
49	1972	緑川芳行	三井金属鉱業(株)神岡鉱業所実習報告	岐阜
49	1972	山崎芳樹	太平洋炭硯(株)釧路炭硯実習報告	北海道
50	1973	石河順	日鉱探開株式会社豊羽作業所	北海道
50	1973	大橋貞義	佐藤工業K.K札幌支店地下鉄大通作業所	北海道
50	1973	奥村達也	明治コンサルタントK.K札幌支店小樽内川地回り	北海道
50	1973	押田元樹	北海道炭硯汽船株式会社夕張炭硯新二硯	北海道
50	1973	上岡晴人	動力炉核燃料開発事業団人形峠鉱業所	岡山
50	1973	小林秀樹	青函建設局竜飛鉄道建設所	青森
50	1973	佐藤彰芳	同和鉱業株式会社花岡鉱業所	秋田
50	1973	里島一郎	秩父セメント株式会社埼玉事業所三輪採掘所	埼玉
50	1973	渋谷隆雄	青函建設局竜飛鉄道建設所	青森
50	1973	橘隆二	日特建設株式会社札幌支店、幌加内	青森
50	1973	永井省悟	大成建設株式会社札幌支店、風連ダム作業所	北海道
50	1973	奈良橋太郎	石油資源開発株式会社長岡鉱業所	新潟
50	1973	長谷川吉昭	北海道炭硯汽船株式会社夕張炭硯新二硯	北海道
50	1973	本保裕	明治コンサルタント株式会社札幌支店、小平ダム現場	北海道
50	1973	松村修一	三井金属鉱業株式会社神岡鉱業所	岐阜
50	1973	山部博司	太平洋炭硯株式会社釧路炭硯	北海道
52	1975	青沼裕二	住友石炭赤平鉱業所	北海道
52	1975	阿比留彰	青函トンネル吉岡工事	北海道
52	1975	伊藤千尋	日本鉱業(株)豊羽鉱業所	北海道
52	1975	伊藤良一	三井石炭芦別硯業所	北海道
52	1975	上戸喜久夫	北炭第2新坑	北海道
52	1975	宇佐美栄邦	青函トンネル吉岡坑	北海道
52	1975	蝦名雅章	日本セメント株式会社峯朗鉱山	北海道
52	1975	大久保力	北炭清水沢炭硯	北海道
52	1975	岡野吾一	同和鉱業小坂鉱山	秋田
52	1975	小野修司	三井金属神岡鉱業所	岐阜
52	1975	小野慎吾	同和鉱業(株)花岡鉱業所	秋田
52	1975	角田英男	八幡平区域地熱開発実習報文	岩手
52	1975	河野通秀	石油資源開発株式会社長岡鉱業所	新潟
52	1975	木船亨	三井建設株式会社芦別、上砂川、小樽、銭函作業所	北海道
52	1975	金竜之緒	石油資源の開発(新潟県長岡市周辺の試掘)実習報文	新潟
52	1975	高田和雄	太平洋炭硯(株)釧路作業所	北海道
52	1975	後藤克喜	北炭夕張新炭坑	北海道
52	1975	島内洋志	大成建設(株)風連ダム作業所	北海道
52	1975	関口健之	三井鉱山三池鉱業所	熊本
52	1975	田中孝次	北炭夕張新炭硯	北海道
52	1975	谷川喜久雄	石油資源開発株式会社長岡鉱業所	新潟
52	1975	直井孝一	住鉱コンサルタント株式会社岩内町共和リヤムナイ地域の地質調査	北海道
52	1975	西村実	中外鉱業上国鉱業所実習報文	北海道
52	1975	福田和寛	三井鉱山(株)三池鉱業所	熊本

期	年	名前（旧姓）	実習報文タイトル	所在地
52	1975	本間信一	三井金属神岡鉱業所柘洞坑	岐阜
52	1975	三浦敏弘	青函トンネル吉岡鉄道建設所	北海道
52	1975	渡辺敬一	日本重化学工業地熱開発株式会社	秋田
52	1975	渡辺勉	釈迦内鉱山	秋田
52	1975	小林寛臣	日鉄鉱業(株)釜石鉱業所	岩手
52	1975	茂木克巳	日鉄鉱業株式会社釜石鉱業所	岩手

- 備考
- (1) 本表は、旧資源図書室図書カードならびに実習報文の背表紙に記載の事項を元に作成し、1950年までは適宜閲覧が完了している実習報文のデータを加えた。
 - (2) 「期」は旧資源図書室図書カード掲載のものを反映した。
 - (3) 「年」は原則実習報文の背表紙に記載のものを反映した。ただし、原本が紛失しているものは図書カードの記述に従い「年」の欄は空欄とした。
 - (4) 「所在地」は、「実習報文タイトル」を元に筆者らが付加した。外地はその一般的な呼称を記し、内地は都道府県名を記した。

〈 解 説 〉

角 池 砂 中
上 本 江
重 文
哲 康 彦 研

はじめに

本稿は、北海道大学（以下、北大）大学院工学研究科・工学部図書室の社会工学系専攻図書室（旧資源）所蔵「実習報文」¹⁾(1926年～1950年まで372冊)を中心に、その性格と資料価値に関して筆者らの専門分野である建築史、特に現在進めている社宅研究の観点から紹介するものである。

近年、建築史の分野では、社宅や官舎など所謂「給与住宅」に関する研究・報告が多く発表されている。この研究は、住宅史研究や社宅開発で市街化される地方都市の成立過程の研究への寄与のみならず、学際的に日本の近代化の諸相を探る一助ともなる。しかし、1970年前後の日本経営者団体連盟の相次ぐ報告²⁾が示すように、社宅施策はこの時代に終焉を迎えている。結果、企業は社宅の分譲や解体を行ない、管理台帳や配置図など社宅を把握できる資料の大部分は散逸してしまっている。同団体の報告において、鉱山の社宅はその立地条件から例外的に必要なものとされていた³⁾が、各鉱山の閉山と同時に、その社宅施策も終焉を迎えているのは、工業系企業と同様である。また、鉱山は公害や労災、労使関係など社会的関心の高い問題を抱え、現存する数少ない資料も公開されにくい状況にある。そのため、既往の社宅研究では、郷土史やオーラルヒストリーなどの2次的資料や現地調査に依拠した個別研究に留まり、社宅を横断的かつ俯瞰的に把握するのは困難な状況にあった。

こういった状況の中、筆者らが着目した資料が実習報文である。今回紹介するのは、筆者らが（財）住宅総合研究財団の研究助成を受け、「日本近代鉱業系企業社宅街に関する研究——鉱山系高等教育機関の実習報文を基礎資料に——」の研究を通して閲覧した実習報文の一部である。当研究では、全国の鉱山を俯瞰的に眺めることを目的に、所蔵先を北海道、東北、東京、京都、九州の5大学に限定し、各大学の実習報文のうち、戦後の傾斜生産政策が終焉する1950年までを対象とした⁴⁾。そのため、本稿における言及は1950年までに限定されるが、実習報文の一覧は、鉱山実習が一時休止する1975年までの992冊を掲載した。

1. 実習報文の基本的な性格とその資料価値

1-1. 実習報文の基本的な性格

鉱山実習とは、旧帝国大学や工手学校など、高等教育機関の鉱山（採鉱）・冶金学

科の学生が主に夏期休暇を利用し、各自割当てられた鉱山や精錬工場などで生産システムを体得する現地実習である。北大では主に2年次の学生が実習を行なっている⁵⁾。また、実習報文とは、大学生が実習期間中に収集した採掘法や換気法などの各種データ、採掘機械や坑内外の図面などの資料を整理し、大学に提出した報告書で、卒業論文に準じるものとして製本され保管されることが多い。北大では扱いは卒業論文と同等であるが、図書カードにより管理されている。ただしOPACには入力されていない。

実習生のうち、大学生は将来の企業幹部となるべき立場にあるため、職員の合宿所に宿泊して実習を進める場合が多い⁶⁾。また、実習報文の内容は生産システムが中心であるが、会社組織や労務、坑外施設など、将来の管理者としての実習生自身の個人的な関心も現れる傾向にある。さらに、北大の実習報文には、OBとの会話の中で得た鉱山の実態、労働状況への批判が見られるほか、他大学の実習報文では倶楽部での幹部職員との会食で厚遇を受けたことなど、赤裸々な内容が綴られることもある。

実習報文の内容は、当初は大学により異なっていたが時代が下ると大差が見られなくなる。また、過去の実習報文を参考にした旨が書かれることがあるほか、北大では1937年にひな形が作成されている。内容は以下に示す通りである⁷⁾。

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 総論
(位置、沿革、鉱産額、管理) 2. 地質および鉱床 3. 探鉱 4. 掘盤および発破 5. 開坑および採掘準備 6. 採掘 7. 支柱 8. 運搬 9. 排水 10. 照明 11. 通気 12. 保安 13. 選鉱域の選炭 | <ol style="list-style-type: none"> 14. 製錬法 15. 動力 16. 坑外諸設備
(坑外図、工場、倉庫、物品配給所、
病院、社宅及び集会所) 17. 労働
(鉱夫の種類及び人員、鉱夫の能率及び
賃金、鉱夫の保険及び福利施設、鉱夫
の教育指導機関、諸種の会合又は組合、
労働に関する諸規則) 18. 鉱山管理
(管理の組織、各係の任務、勤務時間、
能率増進法、鉱山の年中行事、その他) |
|---|---|

このうち、社宅関連事項が見られるものとして、「16. 坑外諸設備」、「17. 労働」、「18. 鉱山管理」が挙げられる。まず、「16. 坑外諸施設」には、福利施設の種類、棟数、戸数が記述されるほか、「坑外図」との名目で施設配置図が添付されていることがある。坑外図は学生が美濃紙にトレースしたものや企業が提供した青焼きの場合があり、多くは社宅が描写されている。中には社宅種別（等級）や管理番号、隣棟間隔を記入しているものもあり、当時の状況を経年的に把握できる。また、「17. 労働」は、鉱夫の種類や賃金が主たる内容である。このほか、病院の診療の種類、労働者の教育など、労働を補完するソフト面での内容も記述される。さらに、「18. 鉱山管理」では会社組織のほか、スキー大会などの年中行事についての項目もあり、福利施設についてのハード面の記述には乏しいものの、社宅居住者の生活の一端を垣間みることができる。

1-2. 実習報文の資料価値

社宅研究における実習報文の資料価値は、第一に、大学における継続的な報告であるため、社宅や社宅街の経年変化を追える点にある。また、従来から存在を知られながら、作成年不明資料の年代が特定可能となること、さらに、これまで見られなかった新規資料を確認できることもある。新規資料とは、企業の内部資料だけでなく、写真機を持参した学生が撮影した写真などを含む。二点目は、将来の幹部職員候補でありながら、第三者の視点で社宅運営の問題点を指摘したり、今後の計画意図に言及するといった、ソフト面に関する記述を確認できることである。既往の社宅研究では、工業系企業社宅街を含めても、計画意図を把握できる事例は、黒沢貞次郎、大原孫三郎、鷲尾勘解治らが開発した社宅街に限られている⁸⁾。

ところで、昨今、実習報文を基礎資料とした研究は多く、社宅研究に限らず当該資料の有用性を示してくれる。特に、実習報文そのものの資料価値を明らかにし、今後の研究発展の道標となるものとして、九州大学記録資料館の前身である旧石炭資料センターが編集した『九州石炭礦業史資料目録』⁹⁾をあげることができる。同目録の解題では、「この実習報告は当然採鉱技術に関する報告が主体となっているが、それにとどまるものではなく、その鉱山の経営・労働にまでわたるものが少なくない。また実習学生を受け入れた鉱山は当時の代表的鉱山であること、学生にとっては一度限りの実習であっても、年々集積されることにより長期にわたる資料となっていること、閉山後の資料の散佚により、他に殆どその実態を窺う資料が存在しない鉱山が多数含まれていること等から、一カ月内外の実習から得られたこれらの報告書は貴重なものである」とその価値を指摘している¹⁰⁾。同目録所収の実習報文目録は以下に示す通りである。

1. 「九州大学工学部採鉱学科学生実習報告（及び卒業論文）目録」（『九州石炭礦業史資料目録』第6集、1980年、325～383頁）
2. 「九州工業大学工学部開発土木工学科実習報告目録」（『九州石炭礦業史資料目録』第9集、1983年、203～292頁）
3. 「大阪大学工学部所蔵採鉱冶金学科関係実習報告・卒業論文目録」（『九州石炭礦業史資料目録』第9集、1983年、295～325頁）
4. 「東京大学工学部資源開発工学科所蔵学生実習報告目録」（『九州石炭礦業史資料目録』第10集、1984年、323頁）
5. 「東京大学工学部金属工学科所蔵学生実習報告及卒業論文目録」（『九州石炭礦業史資料目録』第11集、1986年、329～344頁）

以上から分かるように、北海道、東北、京都の各大学が所蔵する実習報文の目録は作成、収録されておらず、北大所蔵の目録については、本稿に挙げた表がその役割を担うことになる。

2. 北大の実習報文の実際

2-1. 実習報文の所蔵状況と実習先

表から、北大所蔵実習報文の実習先に着目すると、約60%（221冊/372冊）が北海道内で、大学から近い鉱山を実習先として選ぶ傾向が強いことが分かる。当然、北海道には旧財閥系を中心に当時の主要鉱山が多数存在していたこともその要因として考えられる。また、戦後の実習報文は全体の約30%（116冊/372冊）を占め、そのうち約95%（110冊/116冊）が北海道内を実習先とする。北大では、戦後の鉱山実習は1946年から再開されているが、混乱期で鉱山実習自体が困難な中、道外に赴くことが特に難しかったものと推測できる。

北海道に次ぐのは、九州が約9.5%（35冊/372冊）、満州（22件）・朝鮮（6件）・樺太（3件）・台湾（1件）を含む外地が約8.5%（32冊/372冊）で、全て戦前の実習報文である。さらに、東北が約5.5%（21冊/372冊）と続き、その他地域の割合はより小さくなる。しかし、栃木県の古河足尾（9件）、岐阜県の三菱神岡（6件）、愛媛県の住友別子（9件）の各鉱山は、この3県では唯一の実習先である。道外の実習先は地域別の割合としては小さいながら、概ね旧財閥系の大規模鉱山に集中し、こうした実習先の選定から当時の鉱山の趨勢を理解することもできる。

ところで、表に記した年代は、実習報文の背表紙に記載のもので、実習年度を示している。この年度は、鉱山実習が行なわれる2年次に該当する。実習期間は、年度によりばらつきも見られるが、主に7月から8月の夏期である。しかし、16期（1940年）に、表題が『満州勤守報告隊鉄工特技隊北大班報告書』との実習報文があるほか、17期（1941年）に『日立鉱山他見学報文』と表題が打たれた実習報文があり、中に「鉱山科一年目」の学生3名による『東北地方鉱山見学旅行報文』が合綴されている。また、18期（1942年）の学生は1944年に実習を行ない、表紙には「作業報告」や「北大勤労学徒工学部鉱山学科三年目」と表記され、報文中には「勤労動員の発令により正式の論文は書くことができなかつた」と記されるなど、時局を色濃く反映している。さらに、20期（1944年）から22期（1946年）年の3学年は、まとめて1946年度に実習を行なっており、23期（1947年）以降の学生は2年次に単独で実習を行なうなど、変則も確認できる。

2-2. 実習報文に見る社宅の計画意図

ここでは、既往の社宅研究では資料に乏しく把握しにくかつた社宅の計画意図について、実習報文中にみられる内容から、具体的に検討していきたい。

第一に、住環境整備に関して、初期の実習報文では、1927年の高島炭坑二子坑に「コンクリート三階建」、三池四ツ山坑に「上下水道アリテ掃除モヨリ行キトドキ（中略）衛生思想可成普及セリ」、1930年の嘉穂に「（社宅の裏には）6戸ニ共通ナルモ庭アリテ池泉ノ美アリ」と、開発年代の早い九州の鉱山の居住環境に着目している。同時期、北海道の鉱山では住環境改善が行なわれており、例えば1930年の奔別では「従来ハ棟割長屋アリタレ共之ハ現在用ヒズ。今後ハ鉱業警察規則ノ67條ニ該当スル住宅ヲ作ル方針ト聞ク」とある。以上の比較から、九州の鉱山の住環境改善の一部は、国の法整備に先行しているものと読み取れる。

第二に、寒冷地の地域性に関して、1935年の静狩では「(建物が) 防寒、採光ニ注意シテ作ラレテキル」、1936年の撫順では「社宅設備ヨクトノフ 坑所附近ニ小市街ヲナシテ煉瓦造ノ社宅並ブ 冬季ハスチームノ暖房ヲナシ年中ヲ通シテ蒸気栓アリテ湯ヲ得ル容易ナリ 社宅設備トシテハ至レリ尽セリト思フ」、また、1945年の茅沼では防寒の観点から、今後はRC造で社宅を建設する旨の記述があるなど、寒冷地での住宅改善に対する強い意識が読み取れる。さらに、1945年の三井美唄に「現在ハ社宅モ不足ニテ続々ト新設中ニテアパート式ノモノモ新設中デアル」とあり、都市部では物資不足が叫ばれる時代であったにもかかわらず、新規住宅建設予定が明記されている点から当時の石炭鉱山の特異性を理解できよう。

第三に、住宅地の配置計画について、1931年の奔別に「建家間ノ距離平均4間」、雄別に「(山間のため敷地形状が複雑なため) ソノ配置ハ一定セズ各方向ニ散在シテキルガ建築方向ハ南向ガ多数デ建築間隔ハ概ネ四間以上デアル」とあり、採光に対する配慮が建物間距離と共に記されている。また、配置に関連して畑地に関する記述も見られる。1930年の夕張に「畑地貸与 土地余裕アル砦ニ於テハ勤続年数其ノ他ヲ条件トシテ畑地ヲ貸与ス」、1932年の鴻之舞に「各社宅ニハ畑地ヲ附属セシメ自由ニ蔬菜草花ヲ栽培セシム」と、急速な市街化が促されながらも発展段階にあった鉱山街において、企業は社宅と同時に畑地も確保し、社宅居住者に自給自足的生活を促していたことがうかがえる。

このほか、実習生の感想として、1939年の弓張嶺に「表面的ノ云ヒ換ヘレバ視察者、見学者ニ見セル為ノ娯楽施設ハ大イニ完備シテイル シカシ現場ニ働ク日人ノ多クハ兵隊上リデ無教養ナ若者デアル 此ノ点イマ少シ考慮シテ適当ナ施設ガ要ルノデハナイカト思ハレル(中略) 又、独身者ハ倶楽部デ食事ヲシテ居ルガソレガ非常ニ貧シイ淋シイ物デ全クオ話ニナラナス位デアル」と、外地では充実した社宅施設の一方、そこに赴任した社員の生活の質との乖離を指摘するものや、1941年の国富では「採鉱見学後、加勢先輩の有益な話があった。それは、鉱山に努める者の待遇改善といふ事であつた。これは政府がもう少し認識をあらためる必要があるとのことであつた。而らざれば鉱山に来る人がなくなってしまうという事であつた」と、現在でも社会問題とされる様な過酷な労働に対し、政府への批判と解釈できる学生の生の声が記述される。実習報文の性格を如実に反映したのものとして注目できる。

むすび

ここまで筆者らが進めている社宅研究に限定して、実習報文を見てきた。その基本的性格と社宅研究における資料価値については、多少なりともご理解いただけたのではないだろうか。当然ながら、その資料価値が社宅街研究に限られるものでないことは、九州大学所蔵実習報文について述べられた解題の通りである。鉱業に関する研究を行うための一般的な基礎資料としては、鉱山所在地の市町村史、各企業の社史、鉱山関連の雑誌を挙げることができるが、実習報文はそうした資料がカバーしきれていない情報を我々に提供してくれる。このことは、実習報文が各鉱山における当時の生

の情報を現在に伝えてくれる唯一のジャーナリズム資料であることを示しているともいえるのではないだろうか。

最後に、筆者らは今後も実習報文から、これまで把握できなかった新たな知見を抽出し、近代に成立した社宅について横断かつ俯瞰的に把握することを目標にしている。目的遂行のためには、その存在を確認しながら未だ閲覧できていない、本稿に挙げた5大学の1951年以降の実習報文のほか、大阪大学、九州工業大学、ならびに九州大学冶金学科の実習報文、そして、外地であるがソウル大学校図書館所蔵の旧京城鉱山専門学校と旧京城鉱業専門学校鉱山系学科の実習報文の一部を閲覧することが必要で、現在我々はその機会を画策しているところである。

〔注〕

- 1) 本稿では「実習報文」と表記するが、大学や年度によってその表記は異なり、「実習報告」としている場合もある。
- 2) 日本経営者経済団体連盟の『企業における住宅対策』（日本経営者経済団体連盟弘報部、1964年）、『福利厚生合理化の基本方針』（日本経営者経済団体連盟弘報部、1965年）など。
- 3) 前掲『福利厚生合理化の基本方針』、13頁。
- 4) 対象とした実習報文は以下の通り（作成学科・作成年代・所蔵先の順）。〔北海道帝国大学鉱山学科〕1926年～現在・北海道大学工学部旧資源図書室、〔東北帝国大学金属工学科〕1926年～53年・東北大学工学部図書室、〔東京帝国大学採鉱学科〕1899年～現在・東京大学工学部地球システム図書室、〔東京帝国大学冶金学科〕1878年～1916年・東京大学工学部マテリアル工学図書室、〔京都帝国大学採鉱冶金学科〕1899年～1965年・京都大学工学部地球系図書室、〔九州帝国大学鉱山学科〕1914年～現在・九州大学大学文書館、なお、北海道帝国大学冶金学科と、東北帝国大学鉱山学科の実習報文は廃棄処分され現存しない。
- 5) 他大学では実習年度は3年次が多いが、大学や時代により異なり、複数の鉱山で実習を行なう学生もいた。
- 6) 九州大学1916年の伊田の「後藤寺の合宿が一間位空いているかも知れないからあちらに行って庶務の方に話に御覧なさい」という記述から、必ずしも事前に宿泊が約束されていた訳ではないようである。
- 7) 1950年の三井砂川に「昭和12年7月改訂」として、その内容が掲載されている。また、ひな形は九大でも作成され、1950年の三菱高島礦業所端島坑に掲載されている。「16. 鉱山組織及鉱業費」の章の鉱山組織の節に「鉱山事務・労働者（種類、員数、傭聘、労役、賃金及支払法、待遇、扶助等）・住宅（職員住宅、鉱員住宅）・鉱山特設教育機関・鉱山特設衛生設備・鉱山特設娯楽機関・其他、鉱業費、意見」とあり、項目名に違いがあり、福利施設が細かく分類されているものの、内容は北大とほぼ同じである。
- 8) 山口廣「蒲田の「吾等が村」……黒沢貞次郎の工場村」（山口廣編『郊外住宅地の系譜 東京の田園ユートピア』鹿島出版会、1987年、109～118頁）、砂本文彦「鷺尾勘解治と新居浜・住友山田団地について」日本建築学会計画系論文集、第519号、1999年、271～278頁、中野茂夫「工業系企業の産業基盤整備が近代地方都市の空間変容に及ぼした影響——倉敷紡績と都市・倉敷の関係を事例に——」日本建築学会計画系論文集、第544号、2001年、273～280頁など。
- 9) 秀村選三ほか編『九州石炭礦業史資料目録』（（財）西日本文化協会）は第12集まで出版されている。出版年は1975年～1986年。
- 10) 「九州大学工学部採鉱学科学生実習報告（及び卒業論文）目録」（『九州石炭礦業史資料目録』第6集、（財）西日本文化協会、1980年、10頁）。

協力：谷村仰士 (広島国際大学助手)
崎山俊雄 (秋田県立大学助教)
中野茂夫 (筑波大学研究員)
飛渡慶子 (北海道大学大学院生)

執筆：(かく さとる / 秋田工業高等専門学校助手)
(いけがみ しげやす / 北海道大学助手)
(すなもと ふみひこ / 広島国際大学助教授)
(なかえ けん / 神戸大学助手)